

埼臨技 だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048 (824) 4077 FAX 048 (824) 4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

全国「検査と健康展」埼玉会場開催される。

全国「検査と健康展」は11月11日の「臨床検査の日」を中心に全国の都道府県技師会が、一般市民の方々に臨床検査の正しい知識の啓発と検査技師のPRのために行っている公益事業であり、埼玉県では今年度で4回目の開催となります。今回は11月12日に浦和コルソを埼玉会場として開催しました。当日は天候にも恵まれ、また事前に新聞広告によるチラシの配布をおこなったおかげか、多くの市民の方に来場いただきました。初めて使用した会場であり、案内誘導に多少手間取ることはありましたが、20名のスタッフと2名の相談医のチームワークで無事にイベントを終了することができ、ご参加いただいたスタッフの皆様には感謝申し上げます。以下に今回スタッフとして参加した若手技師さんの感想を記載します。

(事業部：濱本)

全国「検査と健康展」に参加して

メディカルトピア草加病院
本多 晴香



今回初めて、全国「検査と健康展」に参加させていただき、血管年齢測定を中心arding;に担当させていただきました。様々な年齢の方々に参加していただき、皆様の健康への意識の高さに驚きました。検査を行い、参加していただいた方に結果説明をする際、皆様からの質問が非常に多く、臨床検査技師として検査に関する専門知識を今後もより高めていく必要性があると強く感じました。また、大勢の方に来ていただいたため、誘導する際もスムーズに案内することが難しく、コミュニケーション能力の必要性も感じました。他病院の方々との交流も貴重な経験となり、様々な刺激を受けることができました。このような機会を大切にし、今後の実務に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

防衛医科大学校病院
鈴木 里依子



今回、全国「検査と健康展」に参加させていただき、私は骨密度測定を担当しました。体験に来られた方の多くが骨密度測定の経験があり、健康への意識の高さを知ることができました。私は普段生理検査を担当しており、患者さんと接する機会は多くありますが、実際に検査の結果説明をすることは少なく、分かりやすく結果の説明をすることの難しさを改めて痛感しました。大勢の方々が今回の活動に興味をもってくださり大盛況でとても大変でした！が、その分多くの人と交流がもてて、臨床検査技師の仕事が少しでも知つてもらえるいい機会になったと思います。また、他院の方々との交流をもてたことが私にとっていい経験となりました。今後もこのような機会があれば参加させてもらえたならと思います。ありがとうございました。

埼玉協同病院
榎本 美由



全国「検査と健康展」に参加させていただきました。骨密度の測定は初めてで少し不安はありましたが、検査に興味を持ち体験してくださる方が次々といらっしゃって、とても充実した1日になりました。簡単に検査し結果をすぐに聞いてもらえるため、検査や健康に関心を持っていただく良い機会であると感じました。乳癌触診体験では、「小さいしこりはわかりにくい」や「意外と強く触らなくてはわからないのね」という感想を多くいただき、検診を受けたことがない方もいらっしゃいました。今回の体験が自己チェックや検診を受けるきっかけになると良いです。

普段は病院で患者さんの検査を行っていますが、今回市民の方々に臨床検査技師とは何か、検査とはどのようなものかを実際に体験していただき、お話しすることができて良い経験になりました。今後、病院でも検査結果を技師が説明したり、検査について広く知っていただく機会をつくりしていくなら良いなと思います。



深谷福祉健康まつり開催される

去る10月29日(土)深谷市ビックタートルで開催された第11回深谷市福祉健康まつりに、埼臨技公事事業の一環として参加協力しました。当日は、天候にも恵まれ、会場には多くの市民の皆様が来場し、血糖測定コーナーでは400名以上の検査を実施し、医師相談コーナーも大変盛況でした。当日参加協力して頂いた、医師・埼臨技スタッフの皆様には、心より感謝申し上げます。

以下に今回初めて埼臨技イベントスタッフとして参加協力した皆様の感想を記載します。

(事業部：藤井)



埼玉県立循環器・呼吸器病センター
宮川 芽依



10月29、30日に深谷ビックタートルにて深谷健康まつりが開催され、私は29日に実務委員として参加させていただき、来場者に簡易血糖測定を行いました。実際に測定器を使用した血糖測定は初めての経験であったため緊張しましたが、お越しくださった皆様の健康に少しでも貢献できたらと思い、一人一人責任を持って検査させていただきました。実際に来場者皆様の血糖の測定を行い感じたことは、検査技師が行う検査が、正確かつ迅速であることがいかに重要であるかということでした。検査を受ける方の負担や不安を考えると、正しく速やかに結果を出すことがなによりも大切だと思い、たくさんの来場者に焦りそうになりながらも、正確で迅速な検査を心掛けました。また、あいさつや説明、声掛けは、検査をする側・受ける側ともに安心して結果を出すために必要だと感じました。

4月に臨床検査技師として働き始めて半年程経ちましたが、今回の経験でより一層「検査」で多くの方の健康を支え、貢献したいと思いました。そのためにも、日々精進してまいります。

深谷赤十字病院
清水 彩夏



先日、深谷ビッグタートルで行われた深谷市福祉健康まつりに、スタッフとして参加させていただきました。当日私は、簡易血糖測定を担当しました。予想以上に多くの方が来てください、地域の方とたくさんコミュニケーションを取ることができたと思います。

測定に来た方は、検査前、痛い検査なのかを気にする方が多く、中にはすごく不安そうな方もいたのですが、実際にやってみるとあまり痛くなかったという方が多かったです。やはり検査となると痛みというものは気になることで、検査前の説明の大切さを

改めて感じました。検査が終わると、その検査結果を真剣に聞いており、不安な点があれば検査相談で先生に相談している様子でした。

今回この活動を通して、地域の方々に健康や検査について興味を持っていただくよい機会になったと思います。また、自分自身、検査説明や結果説明をわかりやすく説明することの難しさを知ることができ、とても勉強になったと思います。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

熊谷総合病院
西山 菜月





今回イベントスタッフとして参加させていただき、血糖測定を行いました。来場者の中には、血糖測定は初めてという方や、臨床検査技師を初めて知ったという方が多くいらっしゃいました。健康まつりのようなイベントは、地域の方々に健康に興味を持ってもらい、臨床検査技師を知っていただく良い機会であると思いました。来場者へ検査や結果の説明をしていく中で、どのように伝えたら理解していただけるかという点が難しく感じました。他施設の方の説明を参考にさせていただき、私自身もとても勉強になりました。市民や他施設の方々とコミュニケーションをとることができ、貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

秩父セミナーに参加して

上尾中央医科グループ 上尾中央総合病院
多川 裕介

第19回秩父セミナーに参加しました。初日にマイクロピペットの正しい使い方という内容の講演があり、内容はピペットの仕組みや分注のテクニック、色々な溶液を吸うときのピペットの使い方などでした。分注のテクニックではピペットにチップを装着する際の注意点や、ピペットの容量設定時の目盛りの合わせ方など溶液を吸引する前段階の話から吸引時にピペットを傾けた場合の影響や液体に浸す深さの影響などの話がありました。講義を聞いていて普段の自分のピペット操作はここまで意識して行っていないと感じたため、今後は今回の講義の内容を意識し、普段のピペット操作を行っていきたいです。また、粘性のある液体を分注する際にはリバースピッティングがフォワードピッティングよりも効果的との話がありました。普段のピペット操作ではフォワードピッティングしかおこなっていなかったため、粘性のある液体を分注する際にリバースピッティングでの分注もおこなっていこうと思いました。

ナイトセミナーでは4施設の方が講師になり、それぞれの施設で使用しているメーカーの自動分析装置の特徴を講義しました。私は入職してからひとつのメーカーしか使用していなかつたため、他社の自動分析装置に触れる機会はありませんでした。自分の施設の自動分析装置では当たり前のことが他社のものではそうでなかつたり、逆に他社の自動分析装置の特徴を聞いて自分の施設との違いに驚いたりと非常に興味深い内容でした。機器メーカーの違いで自動分析装置それぞれに特徴があつて面白いと感じました。また、自施設でしか検査をしたことがなかつたので、このナイトセミナーで自施設以外ではどのように自動分析装置が使われているのかを知ることができたのは有意義だったと感じました。

この他にも甲状腺疾患と臨床検査、炎症マーカー最新の知見、SMBGの医療安全について、データの見方～症例を交えて～という内容になっていました。

この秩父セミナーをきっかけに臨床化学についての知識をさらに深められたらと感じます。

各研究班の研修会報告を致します。

テーマ 腸内常在菌が寿命を決める！～大切な腸内環境コントロール～

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：平成28年10月21日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックスティ 602号室 点数：基礎教科－20点

講 師：辨野 義己（国立研究開発法人 理化学研究所）

参加人数：会員66名 賛助会員5名

出席した研究班班員：

公衆衛生研究班：菊地孝司 穴原賢治 榎原外江 立塚梓 石井孟 鈴木勤

微生物検査研究班：永野栄子 砂押克彦 牧俊一 森圭介 毛利光希

研修内容・感想など

今回は研究所に留まらず、テレビを始め幅広くマスメディアにおいても活躍されております、辨野氏に腸内常在菌と寿命をテーマに講演いただいた。腸内常在菌の研究歴史に始まり、善玉菌・悪玉菌という定義以外にも長寿菌という新しいカテゴリーを設け、実際に辨野氏の収集したデータをもとに長寿菌研究について説明をしていただきました。

また、今日においては生活習慣病である肥満・糖尿病においても腸内常在菌のバランスが大きく関係していることが取りざたされているところだが、その説明に加えアルツハイマー病や統合失調症を始めとする、脳疾患にも大きく関係していることを説明していただきました。とりわけ“脳のルーツは腸である、腸のルーツが脳ではない”という腸脳相関の話には、強く感じるものがあった。また、発生学においてもその一固体として生物を考えた折、腸の発生は他のどの臓器よりも早くその存在をあらわにすると自分自身驚きを覚えたとともに、考え方の鋭さに武者震いを覚えた。

健康維持の面においても人生40歳から50歳において腸内常在菌バランスに影響をあたえる大きなミズ、老化、乱れがあらわれ、大きく寿命が関係してくると説明いただきました。その点においてもアドバイスをいただき、生活を見直すと同時にプロバイオテクスであるヨーグルトのみに注目・摂取するのではなく、野菜・海藻・豆類をバランス良く摂取することが大切であり、会場に参加いただいた方々には特別に忙しい毎日においても継続できる、辨野氏おすすめの摂取法を教えていただきました。最後となるが、今行われている臨床的起因菌を探索主体とする細菌検査の在り方、また腸内環境（常在菌）の考え方において新しい時代が目前にきていることを実感した。

(文責：鈴木勤)

テーマ 乳腺超音波の腫瘍性病変を学ぶために ～良性・悪性疾患の超音波像、診断のポイント～

主催 生理検査研究班

実施日時：平成28年10月26日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックスティ 603号室 点数：専門教科－20点

講 師：有馬 ひとみ（前橋赤十字病院）

参加人数：会員119名 非会員1名

出席した研究班班員：早川勇樹 仲野浩 家城正和 関口知詠子 田名見里恵 丸山陽介
櫻井友加里 横尾愛

研修内容・感想など

今回の研修会では、「乳腺超音波の腫瘍性病変を学ぶために」と題し、良性・悪性疾患の超音波像、診断ポイントについて有馬氏に講演していただきました。各腫瘍性病変の形状、境界部、内部エコー、高輝度エコースポット、後方エコーレベル、縦横比、境界部高エコー帯、前方・後方乳腺境界線の断裂などを提示していただき、その病変の鑑別ポイントを解り易く説明されました。特に腫瘍の後方エコーレベル、腫瘍周囲の乳管内進展、腫瘍乳管距離の観察は大切であると述べられ、浸潤性乳管癌以外の稀な特殊型の粘液癌や浸潤性小葉癌、非浸潤性乳管癌の型、良性疾患像なども解説された。

視診、触診、所属リンパ節の検索は重要であり、腋窩および胸筋間リンパ節は、レベルI～

IIIに分類されるとのことであった。参加者も非常に多く、会場に入りきれないほどの盛況であり、より知識を深められた非常に有意義な研修会であった。
(文責：関口知詠子)

テーマ アレルギーの最新情報について学びましょう 演題 アレルギーの新しい展開（花粉症が食物アレルギーの原因？）

主催 血清検査研究班

実施日時：平成28年10月27日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ 604号室 点数：専門教科－20点

講 師：田中 昭（サーモフィッシュィーダイアグノスティック株式会社）

参加人数：会員30名

出席した研究班班員：庄司和春 大島まり子 鈴木淳子 鯨井智子 多川祐介 岩崎篤史

中別府奈穂子

研修内容・感想など

今回の研修会は、田中氏からアレルギーの最新情報についてご講演いただいた。

現在、食物アレルギーは頻度も高く多様になっており、特に小児においては治療・管理の原則が『正しい診断に基づいた必要最小限の原因食物の除去』とされている。その上でどの施設でも測定できる抗原特異的IgE抗体価は重要な情報の一つだが、数種類の試薬が利用されており必ずしも相互間の互換性があるわけではないため、施設間での情報の共有には注意が必要とのことだった。

また、特異的IgE検査の特徴としては、国際標準品は存在しないアレルゲンのコンポーネントに対するIgE抗体価を用いることで、食物アレルギー診断頻度が高くなるとされている。コンポーネント特異的IgE検査においては臨床的感度、特異度の向上、免疫療法の適応判断、および交差性の感作範囲の限定や重篤な誘発症状のリスク推定などが臨床への応用として今後期待されているとのことだった。

特異的IgE検査を自施設でルーチン検査として行っている検査室は少ないと思うが、今回の研修会での貴重な話を是非検査室でも生かしてもらえればと感じた。

(文責：中別府奈穂子)

テーマ 輸血検査における異常反応への対応 症例から輸血対応を考える。あなたならどうしますか？

主催 輸血検査研究班

実施日時：平成28年10月28日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ 603号室 点数：基礎教科－20点

講 師：神戸 考裕（日本赤十字 関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所）

参加人数：会員65名 賛助会員1名

出席した研究班班員：山田攻 渡邊一儀 神戸考裕 長谷川卓也 久保居由紀子 斎藤翔子

野呂光恵 佐藤祥子

研修内容・感想など

今回の研修会では、『輸血検査における異常反応への対応』というテーマで、症例問題を提示し、グループ討論を行い、各グループごとに追加検査や臨床側への報告などの意見を発表していただいた。

症例は4症例あり、まず1症例目は『抗M+冷式抗体』保有患者の輸血対応で、必要な追加検査や血液型確定する前の輸血製剤の選択について考えた。2症例目は『妊娠のmimicking抗体』で、mimicking抗体の反応パターンや患者血清の吸収によってどのように同定していくのかなど解説していただいた。3症例目は『抗Jra+同種抗体』の症例であった。複数の抗体保有の可能性がある場合、同定されている抗体を吸収した後、新たに同種抗体を同定していくことが重要となる。同定の際に吸収に必要な同種血球の選択や処理血球など、検査のポイントの説明があった。4症例目は『自己抗体+同種抗体』保有で反応性の強い自己抗体により血液型確定や製剤選択が問題となった症例であった。

それぞれの症例とも、結果解釈が困難な症例であったが、必要となる追加検査や臨床側への報告など、ポイントを分かりやすく講演していただいた。症例を重ねるごとに、少しづつ積極的に意見交換を行なっている様子が見られ、他施設の技師同士でもこのような意見交換を行

なっていく事の必要性を実感した。また輸血検査において、血液型確定や不規則抗体が同定される前に、準備血の連絡を受けることも多いため、追加検査や検査結果の解釈を迅速に判断していくことが重要だと感じた。今後もこのような症例検討を行ない、ルーチン検査に生かしていきたいと考える。

(文責：齋藤翔子)

テーマ 第19回 秩父臨床化学セミナー ~秋季1泊研修会~

主催 臨床化学検査研究班研修会

実施日時：平成28年11月5日14時00分～6日12時00分

会場：宮本の湯（秩父郡小鹿野町） 点数：専門教科－30点

講演1：マイクロピペットの正しい使い方

講師：吉田 将和（エッペンドルフ株式会社）

講演2：甲状腺疾患と臨床検査

講師：山田 洋一（ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社）

講演3：炎症マーカー最新の知見

講師：大井 雅宏（シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティックス株式会社）

講演4：ナイトセミナー～知らなきや損！各社自動分析装置の特徴～

講師：柴田 真明（上尾中央医科グループ 上尾中央総合病院）

安田 達明（上尾中央医科グループ 株式会社アムル）

栗原 将希（浦和医師会メディカルセンター）

市川 智詩（上尾中央医科グループ 上尾中央総合病院）

講演5：SMBGの医療安全について

講師：安藤 寧子（ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社）

講演6：データの見方～症例を交えて1～

講師：大出 淳（埼玉医科大学総合医療センター）

講演7：データの見方～症例を交えて2～

講師：永井 謙一（埼玉県済生会川口総合病院）

参加人数：会員42名 賛助会員42名

出席した研究班班員：巖崎達矢 柴田真明 永井謙一 大谷真澄 安田達明 三木隆治

藤本丈志 大出淳 栗原将希

研修内容・感想など

今年度も11月5日(土)～11月6日(日)にかけて第19回秩父臨床化学セミナーを開催した。

一日目は「マイクロピペットの正しい使い方」、「甲状腺疾患と臨床検査」、「炎症マーカー最新の知見」の講義が行われた。普段使用しているマイクロピペットの操作法・注意点などの詳しい説明をしていただき、初心に戻って正しい使用方法を再確認することができた。甲状腺疾患の講義では基本的なホルモンの働きから甲状腺疾患の診断基準、検査値を交えての症例・検査値の考え方など多岐にわたって説明していただいた。次の炎症マーカーの講義は、近々敗血症のガイドラインが改訂される予定があるため、各炎症マーカーの意義や目的・適切なマーカー検査などを、整理し説明していただき、どの講義もとても参考になる内容だった。

一日目の最後はナイトセミナーとして、各社の自動分析装置の特徴についての討論会が行われた。日立ハイテクノロジーズ、日本電子、ベックマン・コールター、東芝メディカルシステムズの4社の分析装置をそれぞれの施設で使用している4名の講師から、装置の特徴・各会社の独自の技術やメンテナンス・改善してほしい点など様々なことを話していただき、普段知りえない他社の分析装置の話を聞くことができ、とても興味深い内容であった。

二日目は「SMBGの医療安全について」、「データの見方～症例を交えて1～」、「データの見方～症例を交えて2～」の講義が行われた。血糖自己測定をする際のリスクや、穿刺部位や手技による血糖値の違いの話から始まり、穿刺器具の使用法や種類・測定前の手洗いの重要性の説明をしていただき、実際に穿刺器具を使用しての測定も行った。穿刺器具の使用法はとても簡単で、説明さえ受けければ誰でも使用できるような仕様になっており、痛みもほとんどなく検査することができた。最後の症例検討では、講師の方の施設で発見された症例についての詳しい説明があり、実際に検査された際の生化学の検査値だけでなく、血液像やエコー画像などの他の部門のデータも交えての解説をしていただき、とてもわかりやすく参考になる内容だった。

今回のセミナーでは、フロアからも多数の活発な意見や質問があり、予定時間を超過してし

まう講義や、一日目の講義が終了しても就寝までの間、活発な意見交換が繰り広げられ、とても有意義なセミナーであった。

(文責：栗原将希)

テーマ 命を救う新生児マスクリーニング

主催 一般・血清・公衆衛生検査研究班合同

実施日時：平成28年11月11日 19時00分～20時30分

会 場：浦和コミュニティセンター 第13集会室 点数：専門教科－20点

講 師：窪田 満（国立研究開発法人 国立成育医療研究センター）

参加人数：会員33名 賛助会員1名

出席した研究班班員：

公衆衛生：穴原賢治 富井貴之 柿原外江 立塚梓 鈴木勤 石井孟 菊地孝司

一般検査：小関紀之 川音勝江 槇島碧 藤村和夫 波木井裕之 柿沼智史

血清検査：鯨井智子 多川裕介 岩崎篤史 庄司和春

研修内容・感想など

今回の研修会は、窪田氏に新生児マスクリーニング検査についてご講演をいただいた。窪田氏の所属されている成育医療研究センターは胎児医療、周産期医療、小児医療等に関する国の最高峰の機関であり、その分野における第一人者でおられることから、わが国のマスクリーニング検査の現状、課題を網羅的にご紹介いただいた。

新生児マスクリーニング検査に質量分析計を用いたタンデムマス法の導入を勧める通達が2011年に厚生労働省から出され、従来の6疾患から19疾患へ検査対象が拡大された。これにより、今まで以上に新生児疾患の早期探知、早期治療が可能となった。特に、極長鎖アシルCoA脱水素酵素（VLCAD）欠損症を始めとする脂肪酸代謝異常の発見に効果が期待されており、実際に、タンデムマス法での早期発見による治療成功例が紹介された。このように、非常に有用な方法である一方で、検査対象が希少な疾患であることから、専門とする小児科医の不足、確定診断を行える医療機関が限定される、一部の治療法は保険未収載である等の課題が挙げられた。今後は、タンデムマス法のさらなる活用や検査精度の向上、治療法の保険収載に向けての活動に励まれるとのことだった。窪田先生の小児医療へ対する熱意が感じられる、大変有意義な研修会であった。

(文責：菊地孝司)

テーマ ステップアップ研修会～不整脈とペースメーカーの理解を深める～

主催 生理検査研究班

実施日時：平成28年11月12日 14時30分～18時20分

会 場：川口市立医療センター 講堂 点数：専門教科－20点

講 演 1：ステップアップのための不整脈の読み方・考え方

講 師：尾形 申式（東京医科大学病院）

講 演 2：ペースメーカーモードと異常波形

講 師：葉山 恵津子（心臓血管研究会付属病院）

講 演 3：検査技師が見落としてはいけない不整脈

講 師：勝村 俊仁（戸田中央総合病院）

参加人数：会員105名 非会員1名

出席した研究班班員：早川勇樹 仲野浩 家城正和 関口知詠子 田名見里恵 櫻井友加里

研修内容・感想など

『ステップアップ研修会～不整脈とペースメーカーの理解を深める～』のテーマで日臨技認定心電技師、日本不整脈心電学会認定心電検査技師の資格更新指定研修会を開催した。

講演1として尾形氏に『ステップアップのための不整脈の読み方・考え方』について講演していただいた。不整脈の読み方の鍵として①心臓の生理学的なポイントを覚える②不整脈の特徴を覚える③PP間隔、RR間隔、PQ間隔を測ることの重要性をお話しされた。波形の判読において悩むことが少なくない不応期については、部位によって異なることや先行RR間隔の長さによって影響されることを、多くの波形とともに解説された。中でもラダーグラムを用いた期外収縮の解説やアルゴリズムによる頻拍の鑑別などは初心者にもわかりやすく今後活用できる内容であったと思われた。

講演2として葉山氏に『ペースメーカーモードと異常波形』について講演していただいた。初

心者にもわかるようにペースメーカの役割と動作モード、ペースメーカ不全等、幅広くお話ししていただけた。ペースメーカ波形を解釈するポイントとしてペースメーカモードの次に設定レート（心拍数）、不応期の設定を確認することの重要性をお話しされた。ペースメーカ手帳の見方やペースメーカ不全等の実症例を中心に講演していただけたことで、ペースメーカ波形を基本から学ぶ良い機会となった。

講演3として勝村医師に『検査技師が見落としてはいけない不整脈』について講演していただいた。講演1のまとめとして不整脈波形の読み方から症例ごとの医師への連絡の要否など実波形を中心にお話しいただき、幅広く情報を得ることができた有意義な研修会であった。

3講演ともに日臨技認定心電技師、日本不整脈心電学会認定心電検査技師の資格更新指定研修会にふさわしく、不整脈やペースメーカ波形への理解が深まる良い内容であった。

(文責：家城正和、櫻井友加里)

テーマ 甲状腺疾患検査と最近の話題

主催 血清検査研究班

実施日時：平成28年11月17日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ 601号室 点数：基礎教科－20点

講 師：丸尾 直子（東ソー株式会社）

参加人数：会員59名 非会員1名 賛助会員7名

出席した研究班班員：大島まり子 鈴木淳子 鯨井智子 多川裕介 岩崎篤史 庄司和春
天野直樹

研修内容・感想など

今回は丸尾氏より、甲状腺の話題についてご講演いただいた。まず、甲状腺の基本的な説明をしていただいた。甲状腺は蝶のような形をしており、男性の方が下に位置し大きい。甲状腺のホルモンには甲状腺刺激ホルモン（TSH）、甲状腺ホルモン（T3・T4）などがあるが、その関係は、視床下部前葉からTSHが分泌され、T3・T4の合成を促進し、T3・T4はTSHの分泌量を調節するというネガティブフィードバックである。甲状腺疾患の頻度は女性の方が高く、疾患の代表的なものにバセドウ病や橋本病などがある。バセドウ病に代表される甲状腺機能亢進症の症状には、疲れやすい、暑がり、体重減少、食欲亢進、頻脈、眼球突出などがある（ただし高齢者は症状が表れにくいため注意が必要である）。甲状腺疾患で特徴的なのは通院や薬の内服をきちんとしていれば通常の生活が送れることが多いという点である。

次に甲状腺の検査について説明していただいた。甲状腺の検査は、TSH・FT3・FT4などのホルモン検査、抗サイログロブリン抗体・抗マイクロゾーム抗体・抗TSHレセプター抗体などの自己抗体の検出、超音波検査・X線写真などの画像検査があるが、それを総合的に判断することが重要である。TSH・FT3・FT4は多くの施設で測定されているが、標準物質がないためキット間差が生まれてしまうという問題点がある。そこでTSHは全キットの平均を目標値とするハーモナイゼーションという方法でIFCCは2018年を目標に標準化を検討している。

続いて最近の話題として、甲状腺ホルモンの心臓への働きと甲状腺疾患と妊娠の関係について説明していただいた。甲状腺機能が亢進すると心房筋細胞の不応期や房室結節の伝導時間が短縮され、心房細動や頻脈が起こる。逆に甲状腺機能が低下すると肝臓のLDL分解が抑制され、高脂血症になり心血管系にダメージを与える。よって、甲状腺機能異常は心不全をきたす可能性がある。甲状腺機能亢進症の場合、流産や早産のリスクがあり、バセドウ病原因のTRAbは胎盤通過性のため新生児バセドウ病の原因になる。甲状腺機能低下症の場合、不妊や流産、早産が多く、母体の甲状腺ホルモン低下は胎児の知能、発育に影響を及ぼす。米国の甲状腺学会のガイドラインには妊娠時に甲状腺機能低下症が診断されている症例ではTSH値が $2.5 \mu \text{U/ml}$ 以上にならないようにT4量を調節することを推薦するとの記載がある。また、T4投与により胚移植率、出産率の上昇と流産数の低下が見られ、IVF（体外受精）成績が向上するという。実際に不妊外来を訪れる患者の25%が潜在性甲状腺機能低下症という報告もある。不妊患者ではTSH上昇が卵巣機能に悪影響を与え、甲状腺ホルモンは胚や胎盤の発達にも重要なため濃度管理が大切である。

今回の勉強会は基礎から最近の話題まで幅広く教えていただき、とても有意義な内容であった。

(文責：天野直樹)

**平成28年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第9回 理事会議事録**

日 時：平成28年11月11日(木) 18時30分より
場 所：JCHO埼玉メディカルセンター
 　　さいたま市浦和区北浦和4-9-3
議 題：I. 行動報告 II. 報告事項
 　　III. 承認事項 IV. 議題
出 席：(理事)津田 矢作 小山 奈良 長岡
 　　猪浦 石井 松岡 小島 濱本
 　　藤井 長澤 神嶋 伊藤 濱田
 　　山口 鳥山 阿部
 　　(監事)遠藤 細谷
欠 席：(理事)神山 島村 岡田 武関

本日の理事会の出席者は20名であった。理事の出席者は18名で、現在数22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、津田聰一郎会長が務めることとなった。

I. 行動報告 (平成28年10月13日～平成28年11月10日)
 10月13日(木) 平成28年度公益社団法人第8回理事会：

津田、神山、島村、岡田、矢作、
 小山、奈良、猪浦、長岡、石井、
 松岡、小島、藤井、長澤、神嶋、
 伊藤、濱田、山口、阿部、遠藤

10月18日(火) 第45回埼玉県医学検査学会第14回
 実行委員会：猪浦、長岡、長澤

10月21日(金) 埼玉県公衆衛生事業功労者表彰式：
 津田、神山

10月22日(土) 第16回わらび健康まつり準備：
 藤井、矢作

10月23日(日) 第16回わらび健康まつり：
 濱本、藤井、伊藤、矢作

10月23日(日) 糖尿病無料相談会大宮会場：長澤
 10月26日(火) 第54回関甲信学会総務部会：
 奈良、長岡、伊藤

10月29日(土) 第11回深谷市福祉健康まつり：
 藤井、長澤、神嶋、阿部、遠藤

10月29・30日(土・日) 第53回関甲信・首都圏支部
 医学検査学会視察学：
 津田、神山、岡田、矢作、小山、

奈良、長岡、石井、濱本、伊藤、
 濱田

10月29日(土)一都八県ホームページ委員会：
 津田、矢作
 10月30日(日)平成28年度関甲信支部内連絡
 会議：神山、津田、岡田
 10月31日(月)熊谷保健所申請作業：阿部
 11月5日(土)第10回埼玉医療安全大会式典：
 神山
 11月5・6・7日(土・日・月)日臨技地域ニューリ
 ーダー育成研修会：濱田

II. 報告事項

1 事務局

- 1) 神山副会長に日臨技学術企画WG委員への委嘱があり承諾した。任期は平成28年10月15日から平成30年度臨時総会まで。
- 2) 11月3日、第10回埼玉医療安全大会式典へ出席した。

2 総務部

- 1) 「埼臨技だより」第450号、11月15日発行予定

3 事業部

- 1) 10月23日、第16回わらび健康まつりが開催された。
- 2) 10月29日、第11回深谷市福祉健康まつりが開催された。
- 3) 11月12日開催の全国検査と健康展の派遣実務委員について。

4 学術部

- 1) 特になし。

5 精度保証部

- 1) 特になし。

6 会計部

- 1) 平成28年度正会員費5名分25,000円、入会金5名分5,000円、合計30,000円の入金があった。
- 2) 生涯教育推進研修会の助成金50,000円×3研修会、39,000円×1研修会、合計189,000円の入金があった。
- 3) 極東製薬工業より疑似便特許使用料平成28年度上半期分275,907円の入金があった。
- 4) だより第449号代115,571円、学会抄録集仕分け47,225円、合計162,792円を石井印刷へ振り込んだ。
- 5) 日臨技へ地域ニューリーダー育成研修会参加費30,000円を振り込んだ。

7 精度管理委員会

- 1) 平成28年度埼玉県医師会精度管理調査速報の発送を行った。

8 一都八県会長会議

- 1) 10月29日、ホームページ委員会が開催された。

9 日臨技関甲信支部

- 1) 10月30日、連絡会議が開催された。

10 日臨技

- 1) 特になし。

11 第45回埼玉県医学検査学会

- 1) 10月18日、第14回実行委員会を開催した。

12 第54回日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会

- 1) 10月29日・30日、第53回関甲信・首都圏支部医学検査学会の視察を行った。

III. 承認事項**1 事務局**

- 1) 会員動向(平成28年度分)

平成28年11月1日現在

会員数 2,753名

(新入会員241名[平成27年度会員数2,587名])

賛助会員 82社[平成27年度 79社]

承認された。

- 2) 事務所の年末年始休暇について

平成28年12月28日(水)から平成29年1月4日(水)までの期間を事務所の年末年始休暇として承認された。

2 総務部

- 1) 検査説明・相談ができる臨床検査技師育成講習会について

承認された。

3 事業部

- 1) 第16回わらび健康まつり決算報告について

承認された。

- 2) 深谷市福祉健康まつり決算報告について

承認された。

4 学術部

- 1) 平成28年度地区別研修会について
テーマ:「人気があった研修会をもう一度」
平成29年2月4日(土) 13時30分～
深谷赤十字病院
平成29年2月25日(土) 13時30分～
獨協医科大学越谷病院
承認された。

5 精度保証部

- 1) 特になし。

6 会計部

- 1) 事務員の12月賞与について、昨年同様とすることで承認された。

7 精度管理委員会

- 1) 特になし。

8 第54回日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会

- 1) 特になし。

IV. 議題

特になし。

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。



埼臨技事務所の年末年始休暇について

平成28年12月28日(水)～平成29年1月4日(水)

上記期間、事務所はお休みになります。

求人案内

○慶應義塾大学信濃町キャンパス

採用条件：嘱託職員
連絡先：03-5363-3615
人事課 松林、宮崎

○一般社団法人 巨樹の会 所沢明生病院

採用条件：正職員
連絡先：04-2928-9110 総務課 三次

○特定医療法人 俊仁会 埼玉よりいい病院

採用条件：正職員
連絡先：048-579-2788 事務長 井上
総務人事課 根本

○医療法人財団 聖蹟会 埼玉県央病院

採用条件：正職員
連絡先：048-776-0022
総務人事課 根本

○獨協医科大学越谷病院

採用条件：正職員
連絡先：048-965-9138 職員係 翠田
048-965-4954 臨床検査部 柴崎

○医療法人社団 松弘会 三愛病院

採用条件：正職員
連絡先：048-866-1717
診療技術部長室 新木

○株式会社ピーシーエルジャパン 病理・細胞診センター

採用条件：正職員 臨時職員（パート）
連絡先：049-234-7310 人事課 古田島

○医療法人 大宮シティクリニック

採用条件：正職員 臨時職員（パート）
連絡先：048-645-1256 本部長 星野

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

あとがき

支えてもらった一年

今年もあと数週間、今年は皆さんにとってどんな年でしたか？

私事で恐縮ですが、私にとって激動の一年でした。慣れない科長業、埼玉県医学検査学会実行委員長、中堅技師の退職、初めての採用試験、結婚式の主賓挨拶、50歳にしてやることなすこと初めてのことばかりでした。

そんな時、救われたことは声をかけてくれる人の存在でした。掃除のおじさん、職場の仲間の一言で何度も救われた気がします。

それと第45回埼玉県医学検査学会実行委員との出会いです。推進力ない実行委員長でしたが、県学会を形にしてくれました。本当にありがとうございます。

また職場においても産休・育休・退職者と人手不足のなか、頑張ってくれたスタッフにも感謝！感謝！です。

人という漢字は、支えあって立っている像とよく言われます。今年は本当に支えてもらった一年でした。来年は少しでも支える方にまわれば・・・まわりたいと思うこの頃です。

(猪浦 記)

